

まなべしま  
**真鍋島**  
(岡山県笠岡市)

離島特性に対応したAI・ドローン等による鳥獣害対策モデルの構築

《概要》

島内人口(R2): 147人

島の問題

●10年前は1頭もいなかったイノシシが、本土から海を渡って繁殖し、農作物等の被害が急増するなど島民の生活を脅かしている。

●他の島々でも同様な状況で、農作物被害だけでなく、人的被害や対策費用や人手不足等もあり、人口減少・高齢化と併せて課題となっている。  
⇒高齢化に伴う島内駆除の担い手不足に対し、新たな技術の導入による対策支援が必要。また、離島特性を活用した集中的かつ効果的な対策の確立が必要。



調査体制

真鍋島スマートアイランド推進協議会	
株式会社エイト日本技術開発 (代表団体)	
笠岡市 真鍋島支所	
株式会社システムズナカシマ	
電気興業株式会社	
真鍋島いのしし駆除G	
その他関係者が協力予定	

主な取組概要

- 海に囲まれた小さな生活圏である離島の特徴や、AI画像解析やハンティングドローン等の技術を活用し、鳥獣(イノシシ)を出来るだけ一定のエリアへ追い込み一斉捕獲、島に上陸させない離島の特性に対応した効果的な鳥獣害対策モデルの構築の検証を行う。
- 離島における鳥獣害対策の先導的なモデルとして、各種研修等を通じた人材育成を行う。

目指す姿・期待する効果

●イノシシのいない島、安心して暮らせる生活環境の実現

・AI画像解析や鳥獣ワナ監視通報システム等を組合せた鳥獣害対策クラウドを活用した日常対策の強化と、ハンティングドローンを活用した集中的鳥獣害対策による効果的な対策を構築し、安心して暮らせる生活環境を実現する。



●離島での効果的な鳥獣害対策の構築による笠岡諸島全体への展開

・離島における鳥獣対策の先導的なモデルとして、ICTを活用した日常対策と集中的対策を構築し、他の島々での対策の展開を図る。



おおさきかみじま・いくのしま  
**大崎上島・生野島**  
(広島県大崎上島町)

自律航行船による広域・多用途サービスモデルの実現に向けた検証

《概要》

島内人口(R2): 7,084人(大崎上島)/11人(生野島)

島の問題

移住者を惹きつける「便利で暮らしやすい生活環境づくり」

- 人口減少・過疎問題に歯止めをかけるためには、町内どこでも便利に暮らせる環境創出が重要であるが、特に二次離島では、島外にしかない生活利便施設へ行く場合、移動コストがかかるため、買物等が不便。これに対し商品等の「宅配サービス」も考えられるが、輸送コストが高くなるため、二次離島までサービスが届いていないのが現状。
- また昨年度の実証において、自律航行船による海上タクシーの事業化に向けた検証を行ったが、事業規模が小さいことから事業性確保の観点において課題が確認された。そこで課題に対応した新たな体制構築を行う必要がある。



調査体制

大崎上島町自律航行型貨客混載サービス推進協議会	
株式会社地域未来研究所(代表団体)	
大崎上島町	
広島県	
広島商船高等専門学校	
生活協同組合ひろしま	
株式会社エイトノット	
協力体制	江田島市 竹原市 富士通Japan株式会社

主な取組概要

- 商品宅配事業に低コストで運用可能な「自律航行型」のEV船を用いた「貨客混載サービス」を組み入れるスキームを検討し、大崎上島～生野島において実証運航を行う。
- 加えて、今後の完全無人運航を想定した技術環境の向上を図るための遠隔監視システムの試験運用を行う。
- 周辺自治体など離島関係者へヒアリング調査を行い、実装に向けた体制構築を行う。

目指す姿・期待する効果

新技術の活用 × 生協と連携

低コストでの運航の実現 × 安全性の高い運航の実現  
広域での事業基盤活用で 事業性を確保

●海に道をつくり「繋がる離島」の実現

自律航行技術活用で、あたかも海の「道」のような24時間利用可能な海上交通が整備でき、様々なヒト・モノが大崎上島と他地域を自由に往来しながら生活を送ることで、人口減少に歯止めをかけるだけでなく、多くの移住者を惹きつける新しい離島の姿を目指す。

●生活の利便性の高い、魅力的な離島の実現

大崎上島は多様な人材を育てる教育の島として、毎年一定数の若年層が「移住」する機会に恵まれている。卒業後の定住、もしくは将来的なIターン移住者の確保を進めることで人口減少から脱却し、環境豊かな魅力的な離島を実現する。

